

令和4年度天栄中学校区拡大学校運営協議会報告書

○日時 令和4年10月6日(木) 15:00~16:40

○場所 栄小学校体育館

○参加者 別紙

1 開会あいさつ

(委員長より)

一同に会したので交流を深めていただきたい。

2 講演

鈴鹿市教育委員会 教育支援課 杉谷 直俊講師より

「あらためて・・・鈴鹿型コミュニティ・スクールとは」
について講演していただいた。

- ・コミュニティ・スクールに至る経緯
- ・コミュニティ・スクールとは
- ・コミュニティ・スクールの広がりなど。

詳細 別紙参照



3 グループの話し合いおよび全体交流

学校運営協議会としてできることや課題等6つのグループに分け討議を行った。
安全安心活動や環境整備, 学習支援, 地域連携, 防災活動, その他など自由討議を行う。

A グループ

- ・安全安心活動や環境整備, 学習支援など学校へ支援をしている。地区によって学校と地域との結びつきに差がある。家族形態によっても違いがある。
- ・地域を好きになってもらう取り組みを行っていく。
- ・学校が, 地域の核となっているか言い難い。



B グループ

- ・PTA 主体で活動がない。地域の方でイベントとしてもらっている。
- ・地域活動は多い。
- ・防災部会があり, 生徒への防災教育を行っている。
- ・公民館を利用し子ども教室や夏休み授業をボランティアで行っている。

C グループ

過去や現状はどうかという問いに対して

- ・コロナ禍でボランティア活動が制限される中, 学校によって対応が違う。やっている学校とそうでない学校があり, 平等に体験, 経験させてあげたいという思いがある。校長が OK

- を出さないと何もできないのでしょうか。反対にコロナ禍で子どもの様子が見たいと増えた学校もある。地域コーディネータの役割大きいと感じる。地域と学校が連携できている。
- ・皆が顔見知り、子どもを守る意識強い。支援型であるが他校でどんなことをやっているか情報を共有したい。共有することで自校でなにができるかを探る。
 - ・広報や回覧で何をしているか知ることができる。
 - ・行事が減っているので地域の行事を増やしていく。
 - ・コロナ禍でもボランティアは行っていたが人が少ない状況。ボランティアも高齢者が多い。頼みにくいし感染が怖い。

D グループ

各校でどのような支援をしているか発表した。

- ・清掃活動や赤丸先生、登下校の見守り。地域の方が放課後ドリル
- ・花壇の整備、登下校の見守り、読み聞かせ、宿題の〇付け、理科の実験などの手伝いがあげられた。
- ・グラウンドの草取り、あいさつ運動、地域づくり協議会のサポートを受ける。
- ・コミュニティ・スクールの勉強会はしえいるが、3つの形が理解しにくい。
- ・教育課題が地域によってはわからない。ストレートに言ってほしい。

E グループ

- ・統合について話をした。
- ・学校運営協議会では複式学級の話になる。複式学級ではいけないのか。
- ・複式学級のことを教育委員会は実際に見てきたのか。経験し、親の反応、子どもの反応を見てほしい
- ・統合は仕方ないことだと思っているが、保護者とこれから学校に入学する未就学児の親の意見も必要。
- ・通学など郡山までバスで行くのか。教育委員会の中でやってもだめ
- ・学校というコミュニティが中心でなくなれば不安など統合への思いや意見がでた。
- ・せっかく作り上げたものが統合されると心配。むしろ問題はマンモス校のほうだと思う。
- ・小規模のほうで先生の目が行き届いてありがたい。
- ・自然豊かな環境のある地域で育てたほうが豊か。
- ・合川、天名、栄、郡山 地域の特性、多様性、文化、今まで培ったものが画一的にとらえるのではなくコミュニティが崩れる。



F グループ

- ・現状は、どの学校も支援型の状況である。草刈りや読み聞かせ、登下校の見守り
- ・ボランティアの方の高齢化
- ・地域との連携では子ども教室を開設し、地域との交流を図っている。

以上の意見がグループで出され、今後、各学校運営協議会において議論の参考話題とする。